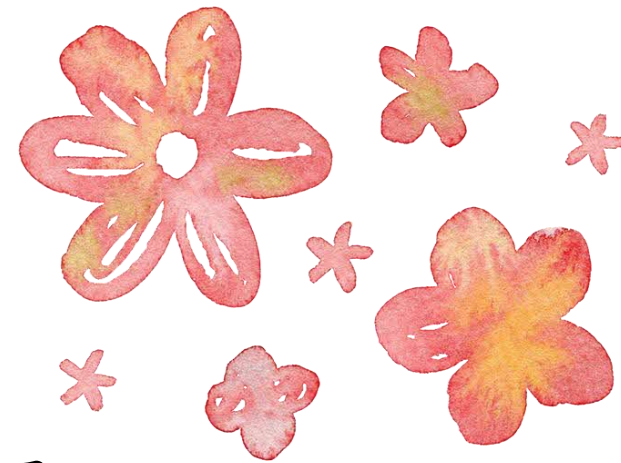
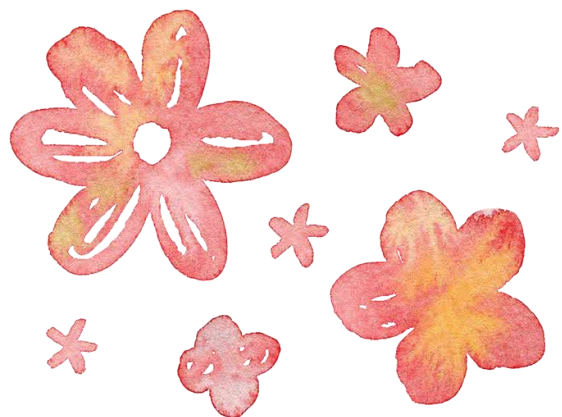


令和6年度 長期研修員 研修成果中間発表



子どもを深くみつめる

～発達障がいのある子どもを中心に～



島根県教育センター

教育相談スタッフ 特別支援教育セクション

長期研修員 山中 あゆみ

(現籍校：松江養護学校)

発表の内容

1. 研修動機について
2. 子どもを深くみつめる
3. 今後の研修について

1. 研修動機について



<特別支援学校での様々な実態の子どもとの出会いから>

発達障がいのある子どもたちの

自分の気持ちを表現することの難しさ
感情コントロールや対人関係の課題

不適切な行動

悩み

- 表現の背景と子どもの内面の理解
- 適切な関わりと支援



<学校現場において>

教師間・SC・関係機関との
情報共有、連携

支援の検討、授業づくり

発達段階

内面

障がい特性

環境要因

様々な視点から
子どもを捉えることの大切さ

子どもの様々な行動・感情表現の背景や内面について
教師によって捉え方が様々

自分自身の指導や支援に対する知識や経験不足、
人付き合いの苦手さ からくる自信のなさ

知識、
内面理解を
深めたい



子どもをより知るために

子どもが表現する行動や感情表現などの内面を捉え、障がい特性への支援だけでなく、より子どもの内面に寄り添った関わりについて考えるにはどうしたらよいのかについて探っていきたい。



子どもを理解するための視点・捉え

多面的な
視点

- 行動
- 言葉
- 調子
- 雰囲気
- 表情
- 動作
- 態度

目に見えている部分

気持ち・思い・欲求・願い

内面

内面理解

環境

- ・家庭環境
- ・対人関係
- ・生活環境
- ・学校・学習環境
- ・本人を取り巻く環境

個人

- ・発達段階
- ・障がい特性
- ・興味・関心、好き嫌い
- ・得意・不得意
- ・認知・学習面
- ・情緒面
- ・言語・コミュニケーション
- ・基本的な生活習慣(食事・睡眠)
- ・生育歴
- ・個人の特性
- ・社会性
- ・運動面
- ・体調面

見えていない部分
裏に隠れた
背景・要因

<研修主題>

子どもを深くみつめる
～発達障がいのある子どもを中心に～

<研修の目的>

発達障がいのある子どもを中心に、様々な行動や感情表現の内面を多面的に捉えるための理解を深め、
子どもの内面に寄り添い、深くみつめることを意識した関わりについて探っていく。

2. 子どもを深くみつめる



(1) “子どもを深くみつめる”とは



より子どものことを知るために、
一人一人の子ども、その子どもの内面とじっくり向き合い、
理解すること

『教師にとって子どもを「知る」とは、こちらの見たいものを見て確認しているだけでなく、子どもが見せたいものを知る努力をしているかという省察の繰り返しであると考えている。』

島根大学大学院教授 原広治 『特別支援教育研究2023.4』

<これまでの自分の関わりを振り返り…>

子どもの行動・姿には
意味・気持ちがある

上手く表現できないから
表れている行動や姿



目に見える行動として
表現したときばかり…

見守ると思いつつ、
何もせずにただ見ていた

どう落ち着かせよう…

大人の視点から子どもを見ていたのでは…



子どもの視点に立って子どものことを見よう、理解しようとする



(2) 障がい特性について

基本的な障がい特性の理解

『[子どもの障害特性の理解]は、目の前の子どもの行動の意味を理解したり、仮説を立てたり、効果的に支援する際の重要な土台となるもの』
(阪本 他『総合教育臨床センター研究紀要2023』より)

発達障害の特性には、重複や強弱がある

(本田秀夫『知的障害と発達障害の子どもたち』より)

障がい特性だけでなく、
個人の特性や
背景、環境等も関係

対人関係や感情コントロール、気持ちの理解、表現することの難しさ、感覚の問題 等

愛着の問題（愛着障害）も併せ持つ場合

(米澤好史『やさしくわかる!愛着障害』より)

家庭や関係機関等との
連携も大切

(3) 相手に心を寄せること

(プレイセラピーでの気づきから)

- ・ 子どもの遊び、気持ちの一つ一つにじっくりと関わる (共有体験)
- ・ 子どもの気持ちに寄り添い、ペースに合わせること

大人主体で



子ども主体で

「今、なんか
分かったかも。」

日頃の関係性から見えてくるものがある

安心
信頼



安心・信頼できると
感じられる関係性
↓ ↑
子どもの理解



知ろう
分ろう



(4) スクールカウンセラーの方へのインタビューを通して
<スクールカウンセラーの方の内面の受け止めについて>

自分の思いは
出していいし、あっていい

どんな感情・思いも
否定できない

マイナス感情も
出していい

内面

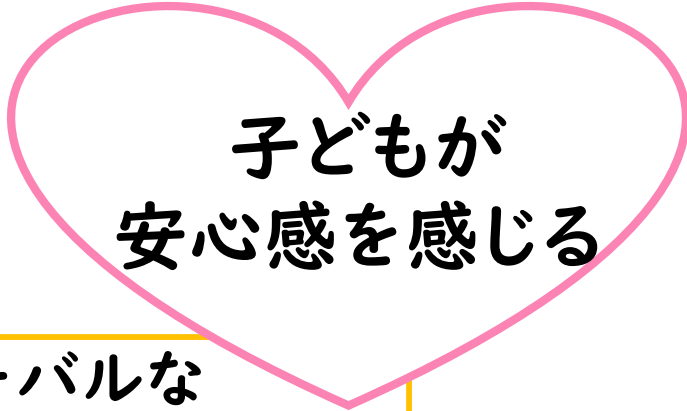
許容ではない言葉掛けや関わり

言語化が難しい子は、
すごく敏感

“今、ここで、この子が
どんな思いなのか”

日頃から想像を働かせ続け、子どもの視点で自分の関わりをみつめる

(5) 深くみつめるサイクル



子どもが
安心感を感じる

一緒に過ごす、体験の共有

安定した、一貫した関わり

言語・ノンバーバルな
コミュニケーションから
→受け止め、言語化して確かめる



共感

行動の奥にある気持ちや意味等を考え、想像する
子どもの変化や新たな姿、表現、無意識のサイン

心を寄せる

知ろうとする、分かってもらう
“今、ここで、この子はどんな思いなのか”
気持ちを受け止め、想像する
(想像を働かせ続ける)

関わりの中で
・観察、情報収集、検査
(表情、行動、言葉…)
・事前情報

関わる前(事前情報)
・引継ぎ資料
・個別の指導計画
・アセスメント表
・聞き取り

子どもの内面、
背景の理解の深まり

チームでの共通理解

主観→客観的に



信頼関係

(6) 自分と向き合う



研修と日頃の生活から

まずは自分とじっくりと向き
合い、整理すること

みんな一人一人違う
共感はピッタリでなくていい

悩みや不安を聞いてもらう、
出すことの大切さ

子どもに自分や大人の
価値観を当たり前のように
押し付けていないか

客観的に

他者視点で

3. 今後の研修について



(1) これまで出会った子どもとの関わりについて

来所教育相談でのプレイセラピーでの関わりから
過去の学校現場で出会った子どもへの関わりから



(2) チームで子どもをみるために

チームで子どもをみていくために必要なことは
どのように共通理解を図り、支援を行っていくと良いのか
大人同士の関係

(3) まとめ

< 出典（引用・参考文献） >

原広治（2023）「大人からみた子ども理解、子どもからみた子ども理解」

特別支援教育研究2023.4

阪本満・稲生加代子・佐川早季子（2023）「子どもの内面理解プロセスから捉える

保育者と特別支援教育担当教員の専門性」総合教育臨床センター研究紀要 第2号

本田秀夫（2024）「知的障害と発達障害の子どもたち」SB新書

米澤好史（2018）「やさしくわかる！愛着障害」ほんの森出版



ご清聴ありがとうございました

